| 理想・現実・希望 この仕事で生きていく |
| サロンオーナーのための労務管理 |
| 今、埼玉がバズってる!! |

2018 5

仕事に夢中

連載 top interview

横井孝彦さん

神戸B2理容美容専門学校 校長

「免許取得最優先ではなく」

モチベーション UP! UP! UP!

理容 美容 ネイル エステティック まつ毛エクステンション

私たちは“人”をつなぐ情報交換の場を作っていきます！

SALON OWNER

No.677

美容師の働き方は変えられる！

「コミュニティサロンと和／訪問美容と和」

株式会社 社会起業家パートナーズが美容業初の『東京ライフ・ワーク・バランス認定企業』に選出

2月8日、東京・千代田区の東京国際フォーラムで、"働き方の意識や仕事の進め方の改革"の社会的機運の醸成を図るため、生活と仕事の調和に関する「いま」がわかるイベント、『ライフ・ワーク・バランスフェスタ東京2018』が開催された。主催は東京都。

都民誰もがイキイキと活躍できる"ダイバーシティ東京"を実現するために人生・生活をもっと大切にすべきであると考え、『ライフ・ワーク・バランス』のメッセージを発信し、働き方の意識や仕事の進め方の改革を推進。その一環として、従業員の生活と仕事の調和に積極的に取り組む企業を"東京ライフ・ワーク・バランス認定企業"としているが、今回は11社を認定。その中で「コミュニティサロン と和／訪問美容 と和」を運営する株式会社 社会起業家パートナーズが、美容業で初めて認定された。

BA東京美容コンソーシアムの団体課題別人材力支援事業の支援先サロンである同社は、起業を推進する会社でもあり、代表取締役社長の中村大作氏は社会的な課題をビジネスで解決する社会起業家育成の専門で『ソーシャル・ビジネスの経営学』や『迷い続ける25歳の退職届』など多数のソーシャルビジネス、経営、人材育成の著作がある。

※BA東京美容コンソーシアム
東京都美容生活衛生同業組合（金内光信理事長）と世界最大の人財サービス企業であるアデコグループの日本法人で、総合人事・人財サービスを展開するアデコ株式会社（川崎健一郎代表取締役社長）で発足した美容業界の人材力の強化を目的とする共同事業体

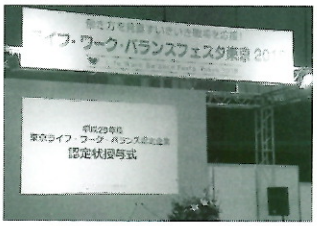
ライフ・ワーク・バランスフェスタ東京2018

都においてはワークよりライフが重要であると、あえて「ライフ」を先に位置し、『ライフ・ワーク・バランス』との並びで呼称しているが、東京ライフ・ワーク・バランス認定状授与式で小池百合子知事は「それがひとつのメッセージとなり、さらにダイバーシティを深めていく。そしてライフもワークも充実ができるという東京にしていきたい」と話す。

加えて、もはや企業戦略といえ生産性の向上、人材確保などの経営課題を解決するべく取り組んで、成果を上げている企業が増加していると続ける。「中でもすばらしい成果を上げられている企業を認定させていただく。今後はモデルとして取り組んでいただくことで、東京での働き方も変わってくると確信している」

また時間や場所にとらわれないテレワークも働き方改革の大きな起爆剤であり、さらに育児休業から復帰する際のノウハウなどについても取り上げているとして、「今日のフェスタが、一人ひとりにあったライフ・ワーク・バランスの実現のきっかけになれば幸い」と述べた。

次いで小倉一哉委員長（早稲田大学商学学術院 教授）の審査講評に続き、認定企業11社が紹介された。なお、大賞には（株）クレストコンサルティング、知事特別賞には一般財団法人損保ジャパン日本興亜スマイルキッズが選ばれた。



―評価基準―

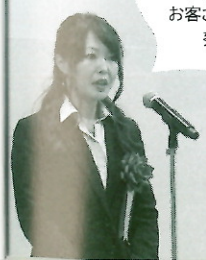
◆経営層を含め社内全体で取り組んでいること
◆社内の課題が明確化されていて、その解決に有効な取り組みであること
◆従業員の意見を反映できる仕組みがあること
◆取組みが社内に周知されており、利用実績があること
◆その他、取り組みの中で評価する事項があること

―認定ポイント―

株式会社社会企業家パートナーズ
～美容業でありながら、働き方・休み方を改革～
◆ノー残業デーや施術後20分後退社といった残業削減の取組
◆勤務時間インターバル制度等による働き方の改革
◆ボランティア休暇制度等による休み方の改革
◆年1回のハワイ社員旅行（7泊9日）

受賞コメント

ライフとワーク、
双方を大切にすることで
生涯美容師として活躍できる環境を
作ろうと、毎日努力しています。
美容業界では
働き方改革を推進していくことは
難しいといわれていますが、
働き方改革を積極的に推進することで、
一石を投じられないかと考えています。
これからも社員とその家族、
お客さまの幸せを作っていけるよう、
努力していきたいと思います



美容業 サービス業における働き方改革

～美容業でありながら、働き方・休み方改革～

株式会社 社会起業家パートナーズ

「コミュニティサロン と和 ／ 訪問美容 と和」
『お客さまに対して、永遠に美しく、そしてお客さまと美容をつなぐ和みの時間を過ごしてもらう。
それはお客さまだけでなく、美容師自身も同様。社員にも和みの時間を過ごしてもらえるようにという想いが込められている』

同社のスタッフは女性だけ。それも10年以上のキャリアを有する美容師のみ、という構成となっている。理由は顧客が女性であること、そしてスタッフひとりで訪問するため、さまざまな要望に応えられるようにとのことだ。

また介護福祉士の資格（国家資格）をはじめ、全スタッフが介護系の資格を有する。実は入社してから取得してもらっているそうで、教育システムに組み込みセミナーなどへの受講料を会社が負担するばかりか、給与も発生する仕組みなのだとか。

スタッフにとっては嬉しい限りだが、それで経営は成り立つのか。といえば、法人となり5期目を迎える同社は右肩上がりに成長している。

「働き方改革とは、単に労働時間を短くする、休みを増やすといったことではありません。業務の取り組み方を改善して、労働生産性の向上につなげる。つまり経営戦略の話にもなるのです」と中村代表。

ただし、スタッフも『今までと働き方を変える』という意識改革をしていかなければならないと続ける。そのためにも、まずは業務を改革し、制度を作って運用する必要があり、経営者の本気度が問われるという。

「訪問美容を日本の文化にしたい、と考えています。しかし現状では担い手が少ない。それは労働環境の悪さも一因であるため、ならば改善策を考える。これは会社のミッションであり、従業員と顧客にとっても良いこと。したがって、みんなが幸せになれる改革をしていると考えています」

働き方改革を実現するおもな取り組み

週１回ノー残業デー

最終受付以降、
全スタッフが入客するケースは
稀であるため、
出勤人数が多くなる
土・日曜日、祝日で実施。

定時から 20 分以内に退社

仕事があって帰れない、ということがないように、すべてのタスクを書きだしている。それにかかる所要時間を計ってリスト化し、役割分担表も作成。さらに『明日でよい業務は明日にする』と指導することで、ムリ・ムラ・ムダをなくしている。

19 種類の雇用形態・給与形態

① 月に1回でも土･日曜日出勤できるか
② 週に何日出勤できるか
③ 1 日何時間働けるか

とフローチャートになっており、そこから基本給を算出。技能資格手当、土・日皆勤手当などを加えて月給としている。もし給料を上げたい場合、たとえば『残業もできる』と選択する、といった具合。

年間休日 120 日

6ヵ月に一度の査定で、次の６ヵ月間の働き方を聞く（たとえば結婚するから働き方を変えたいといえば、このタイミングで変えられる）。その際、有給休暇の希望も募り、他スタッフと休みが重るようであれば、予め派遣スタッフを手配。難しい場合は社内でも調整する。申請通りすべて叶えるとはいかなくても、話し合いの場を持つことが大切となる。有給休暇を取らない社員もいるため、福利厚生として７泊９日の社員旅行を実施。長期間休めないという社員のために、短い社員旅行も用意している。そうしたことで同社の有給休暇取得率は 100%。また 2017 年に試験的に毎月社員が３連休を取る“プレミアム３連休”の制度化を目指している。

勤務間インターバル

就業規則で『勤務と勤務の間は 12 時間を空ける』と定めている。たとえば夜 12 時に退社したとすれば、昼 12 時までは出社できないことになる。なお、朝 10 時が始業であるが、出勤までの２時間も給料が発生し、その日は定時までの勤務となる。

長く続けてもらうための今後の取組み

臨時有給休の暇復活制度

１年目、２年目は労働時間も長かったそうだが、そのときの従業員の有給休暇は失効している。創業のときから貢献してくれている社員であるため、失効した臨時有給休暇を復活できるようにしていく。

年次有給休暇の前借制度

有給休暇は６ヵ月経たないと
取得できないが、
新入社員にも
用事で休みたい場合もあることから、
有給休暇の前借を可能にしていく。

両立支援

仕事に専念したい
という社員を支援するため、
家事サービス会社と提携。
日々の生活を支援する。
ただしスタッフ各々で
評価は異なるのだとか。

美容業の働き方改革

美容師の働き方を変える。それに必要な考え方に何か。株式会社 社会起業家パートナーズの中村大作代表取締役社長、そして事業責任者である美容師の小池由貴子代表・チーフディレクター、さらに入社したばかり（取材時）の柿内沙織さんにお話を伺いました。

働き方は変えられる

美容業界での働き方改革。それに必要なことは、経営者の〝やるという意識が本気かどうか〟です。

社会保険に加入していない美容室はたくさんある、といわれておりますが、これは会社の義務、責任であり、〝誰かの犠牲の上に立つ経営〟はあってはなりません。働き方改革も同様であり、従業員がイキイキと働けることに取り組む、ということから始まっています。

もちろん会社負担は増えて大変だとは思います。しかし、だからこそ経営努力が必要で、客単価を上げる、来店頻度を短縮するといったことに取り組まなければなりません。にもかかわらず、安売りをしていたら難しいのではないでしょうか。つまりは働き方改革に取り組むことは、経営戦略の中に組み込むということなのです。

また現在、美容業界では人手不足といわれておりますが、弊社では採用を強化してからの3ヵ月で、ありがたいことに44名の方が面接に来られました。

もちろん、すべての方というわけにはいかず、理念に共感してくれる方を採用しています。ただ、こうして選ばれたのも、従来の美容師の働き方を変えたからで、広告などの力ではないのです。

ひと昔前、経営者層の修行時代と比べてしまえば、『働き方改革』といわれてもピンとこない。たとえば土・日曜日に休みたいという従業員に対して、『それならシフトを組み直そう』という発想が浮かびづらく、となれば本気になりきれないかもしれません。

したがって昔ながらの美容師像ではなく、今の時代の働き方を理解することも求められる気がします。

つまり経営を学びながら、考え方も変えていく。たとえば弊社では週に1度ノー残業デーを実施しておりますが、その日の閉店間際に飛び込みでお客さまが来店されたとします。そこで断れるか。お客さまにしっかりと事情をお話して、「今日はこうした理由で難しいのですが、明日は来れますか？」と聞けば、大概が来てくれます。もし来られなかったら、それはご縁。

受け入れてあげたい気持ちはわかりますが、目の前にいらっしゃるからそう感じるのであって、インターネット予約であっても『希望する時間に予約が取れない』ということはよくあります。

気持ちを引っ張られないで、ノー残業デーと決めたならお断りする。こうしたことを教育の中でも伝え、従業員自身のマインドを変えてもらうことも必要だと思います。

中村大作代表取締役社長

美容師という立場で考えると、自身の改革が必要だと感じます。働き方改革を推進していく中で、『自分が育った時代と違う』と思うことがほとんど。今までは長時間労働、残業代は発生しない、休みの日は技術練習や勉強に当てる、という生活が当たり前でしたから。

ただ、そう思う一方、自分自身も本当はワークとライフのバランスを大事にしたかったと気付きました。そして、周りの人たちもみんな、そのように働けることが一番良いのではないかと、考えが変わっていったのです。

自分の育った時代とは異なる、美容師の働き方を作っていく。たとえば施術後は20分以内に退社することがルールなのですが、最初は『先に帰るの?』などと思うこともありました。それが今では、むしろ『帰ってもらうことも仕事のうち』と考えています。

それは休憩も同じ。昔は『お客さまのために』と、ろくに休まずにサロンワークに立っていましたが、しっかり1時間の休憩を取ることで仕事のパフォーマンスを上げていくほうが大事だと気づきました。

休むときは休み、仕事のときはしっかりと仕事する。こうした体制を作っていくことが一番大切で、(社長の)中村にも再三いわれていること。やはり上が変わらなければ、下の従業員は変われないと思います。

小池由貴子さん
チーフディレクター

柿内沙織さん

2月入社ということですが、なぜ転職に至ったのでしょうか?

結婚がきっかけになるのですが、旦那さんは土・日曜日、祝日が休みですし、将来は子供も考えていきたかったので、今までの働き方、休み方を変えたいと思っていました。

もちろん美容師として土・日曜日に休むことは難しいことはわかっています。でも(今まで働いていた職場のオーナーと)信頼関係もありましたから、どうにか調整していただいて隔週でも休めないかとも相談していました。

ですが『それは難しい』と、残念な結果となりました。そこで転職をしようと、いろいろと探していたのですが、ご縁があってこちら(同社)のお話を伺うと、働き方がたくさんあり、土・日曜日も休めるということでした。

フリーランスや独立、もしくは業界自体から離れてしまう、といったことは考えなかったのですか?

フリーランスという選択はありませんでした。というのも保障がある程度担保されていること、社会保険の加入が第一条件だったからです。フリーランスの友人もおりますが不安定ですし、私は自分で何とかやっていくとは考えられませんでした。

正直に、独立したいという気持ちもありますが、それよりも家族を一番大事にしたい。そこも大きかったですね。

働き方が変わったことで、考え方に変化はありましたか?

今までは週休1日がほとんどでしたので、休みの日は家のことで一日が終わってしまい、すぐに仕事という生活でした。それが土・日曜日にお休みをいただけるようになって、気持ちの切り替えもできるようになりました。ですからお客さまにもしっかりと向き合えています。

環境が変わり学ぶこともたくさんありますが、気持ちは今までとはまったく異なります。家族(ライフ)も仕事(ワーク)もどちらも大事ですし、美容師は生涯続けていきたい仕事。それが土・日曜日にお休みをいただけるということでしたので、『美容師を続けられる』という希望が生まれたのです。

結婚を機に美容師を辞める友人はすごく多いですが、今までの環境が変わらなければ、復帰もしづらい。やはりライフ・ワーク・バランスというものが少しずつでも広がっていけば、ママさんたち、女性の方たちも働きやすい環境になるのではないかと感じています。